

令和3年度 環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果報告会 発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備”に取り組む	✓
昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む	
昨年度までの“環境整備”を経て、今年度より事業化に取り組む	
昨年度までの“環境整備”と“支援チーム派遣（事業化支援）”を受けて引き続き事業化に取り組む	

活動団体名：みやざきSDGsプラットフォーム

活動地域：宮崎県

活動におけるテーマ・キャッチコピー

『～地域の繋がり、人の繋がりが創り出す豊かな宮崎の未来～』

活動団体紹介

みやざきSDGsプラットフォームとは



令和3年4月、**宮崎県内**における**SDGsの普及啓発及び連携・協働促進**を目的に、自治体・経済団体、大学等の広範なステークホルダーとのパートナーシップを深める産学金労官の連携の場として設立した団体。

代表幹事：平野 亘也氏（宮崎県経営者協会会長）

幹事：宮崎日日新聞（発起人）、宮崎県、宮崎県男女共同参画機構、宮崎大学

事務局：事務局：NPO法人宮崎文化本舗

目標

- ひとりひとりが「**自分ごと**」としてそれぞれに出来ることに取り組む土壌を気づく
- SDGsを原動力とした**地方創生**や**人材育成**を推進
- **パートナーシップ**に基づいて連携して行動する環境を醸成

活動内容:

1. SDGsの理念、具体的取り組みに関する**普及・啓発**
2. SDGsに関する県内の取り組みの**登録・発信**
3. SDGsを推進する**人材の育成**
4. SDGsに関する**調査・分析**
5. SDGsに関する**相談対応**及び取り組みへの**協力・支援**
6. その他、SDGsの達成に向けた取り組み

構成員:

- ①会員 : 業界団体、自治体、マスコミ、NPO 法人、大学 等
- ②活動登録メンバー : 企業、個人 等

会員数：**44**団体 活動登録メンバー：**47**団体

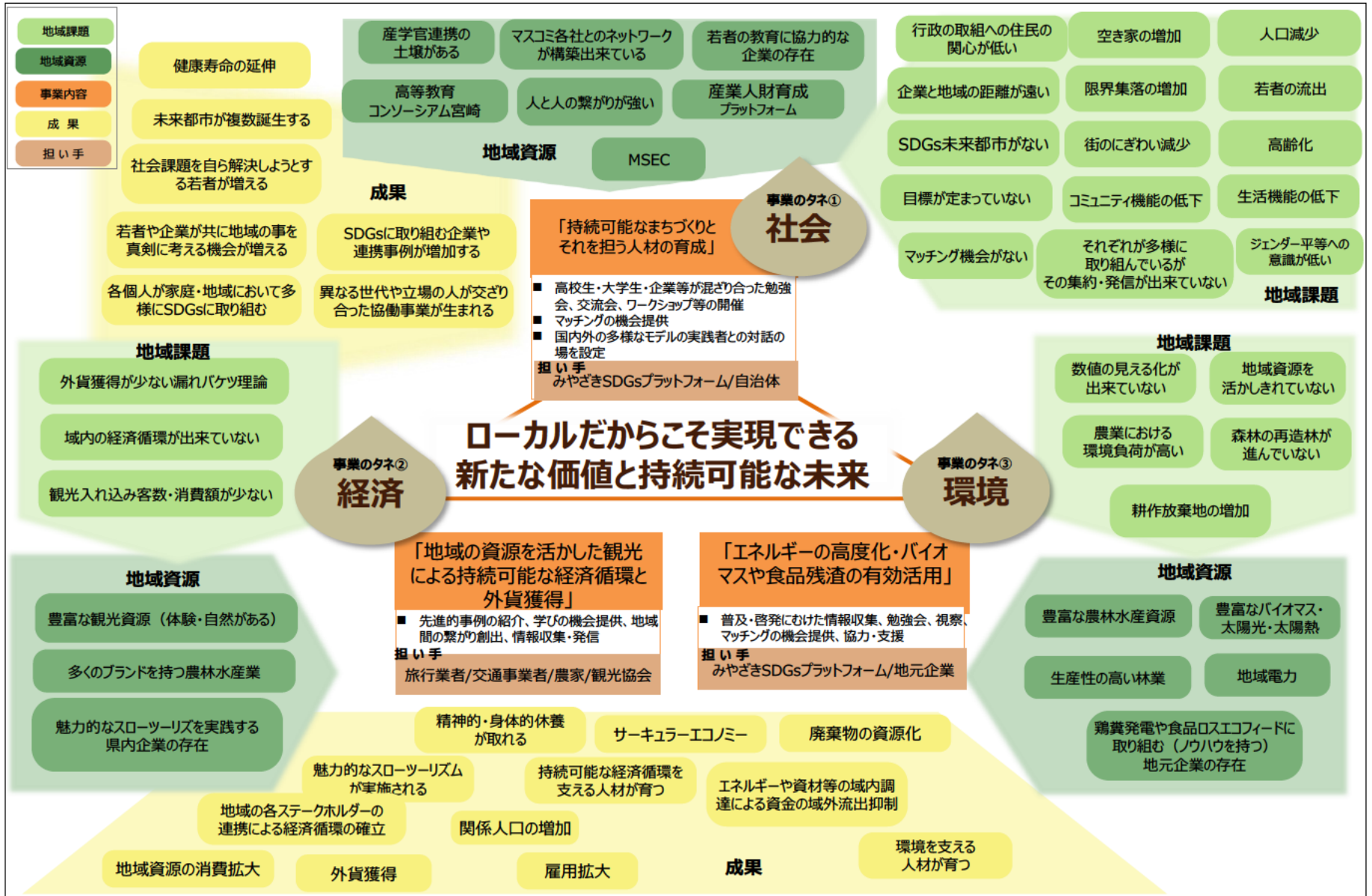
▼地元情報番組からの発信



▼メンバー募集チラシ



地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿



地域のありたい未来の実現のために **今年度取り組んだこと**

地域プラットフォームづくり(普及啓発)

【活動内容】

- ・各会員からの周知 (強化月間)
- ・事務局からの周知

様々な推進会やフォーラム・研修会に登壇し県内における取組の紹介や意見交換を実施

【成果】

- ・会員数：23→44団体 **(21先増)**
- ・活動登録メンバー：12→47団体 **(35先増)**



総会・勉強会・ありたい未来についての意見交換会

【活動内容】

● 勉強会 令和3年6月30日(水)

内容：「現在の取り組みについて」

登壇者

- ・宮崎県中小企業家同友会
- ・日本青年会議所九州地区宮崎ブロック協議会

● 講演会 令和3年12月13日 (月)

テーマ：「今私たちにできること」

講師：焼家 直絵氏 (国連WFP日本事務所所長)



事業の具体化に向けた作業部会開催

【目的】

プラットフォームとして特に力を入れる分野や事業について協議し、作業部会のメンバーが中心となってその推進を行う

【メンバー構成】

- ① 幹事(マスコミ、大学、NPO、経営者協会)
- ② 手を挙げていただいた会員
(JC、中小起業家同友会、連合宮崎 等)
- ③ 事務局より声掛けした企業経営者

計:15名

深めるテーマと実績：

SDGs未来都市

⇒市町村を交えた未来構想ワークショップ開催

事業者間のマッチング

⇒HP内でのマッチング機能の検討

ジェンダー

⇒意識調査(アンケート)実施



メンバーの広がり

- SDGsの取り組みに対する関心が高くなりつつあり、当プラットフォームに賛同する企業や教育機関が増えた
- 新たに加える賛同者の多くが会員や幹事からの紹介によるもので、人づてに少しずつ環が広がっている

活動の広がり

- 会員からの要望や提案による取り組みも生まれ、活動への期待や関心の高まりが感じられた

交ざり合いによる気づきと出会い

- 様々な関係者とディスカッションすることで、本県や地域におけるSDGsについての現状や課題について認識できたと同時に、多様なプレイヤーと出会うことが出来た

関係者の温度感や人員面での調整が難しい

- 本プラットフォームの事業活動や運営におけるマンパワー不足

課題認識の低さと自分ゴト化が出来ていない

- 課題を課題と認識していない人が多く意識変容、行動変容につなげる為に
- どのようなアプローチをすれば良いかが見えていない

自分の地域には何もないという意識

- 地域資源や強みに気づいておらず、取り組みから生まれる成果・効果が見えていない

地域で核となるコーディネーターの不足

- 地域内でコアとなる人材がいない

今後の展望

ステークホルダーを増やす

- 活動登録メンバー100件達成に向け、引き続き普及活動を継続

事業の具体化

- 作業部会等ステークホルダーと今後も深掘りすることで具体的な事業へつなげる

組織体制や財政の充実・強化

- 安定的に自走出来る財源の確保と、運営事務局の増員の模索

個別具体的な活動への協力・支援

- SDGsの達成に向け積極的な活動を行う企業・学校・団体等へ様々な形で協力支援をおこなう

